

【資料 1 - 4】

.....

# 高校生ワークショップ 概要

.....

## 1. 趣旨・目的

第7次総合計画（平成29年度）の策定に向けては、市民の方々と市の現状について認識を共有しながら、将来像をともに描き、わかりやすいまちづくりの指針となるよう、平成27年度内の骨子案作成を目指している。その取り組みの一つとして、市内の高校生を募り、新しいアイデアの創出を期待する「高校生ワークショップ」を開催した。

「会津若松駅前広場等」を対象とし、中心市街地の重要な都市機能、また、電車・バス・タクシーなど公共交通や徒歩・自転車・自家用車の連結拠点としてのよりよい理想像を描き、第7次総合計画の策定や将来の駅前広場等のあり方検討の参考としていくものとする。

## 2. 開催概要

地区	日時	場所	テーマ・対象地	参加人数
高校生ワークショップ	平成27年10月12日（月・祝） 9:00～17:30	会津若松市生涯学習総合センター稽古堂 研修室	「未来へつなぐ会津若松の駅前広場を考える」 会津若松駅前広場及び 州へ地区	市内の高校に通学する生徒 25名（4グループ編成）

## 3. 高校生ワークショップの議事

### （1）開会（企画調整課 馬場副主幹）

### （2）主催挨拶（企画調整課 佐藤課長）

- ・会津若松駅の成り立ちと、その機能、役割を開設しながら、まちづくりデザインゲームの位置づけと内容説明を行った。ワークショップに取り組む高校生は、未来の会津若松に関わる主役である。まちづくりについて考えることは、参加者自身の貴重な経験であると同時に、まちづくりにとって意義のある取り組みである。進学等の理由で会津を離れる人もいる中で、いつか戻ってくることを期待し、未来の会津若松を考えてほしい。

### （3）レクチャー

#### ①会津若松駅前の成り立ち

参加者に会津若松駅と周辺地区におけるまちの成り立ちを再確認してもらうこと、まちづくりの考え方になじんでもらうために、駅と歴史とまちの中での役割にフォーカスした説明と、現在の会津若松市の人口構造と観光客数の推移、市が人口ビジョンに掲げるまちづくり目標、駅周辺の現況について概観した。

#### ②他都市の事例

ディスカッションでのアイデア発想のきっかけを提供するために、駅やまちを構成する要素としての施設とその機能、仕組み等について他都市の事例を紹介しながら説明を行った。

### ③デザインゲームの進め方

当日のディスカッションから模型の政策、プレゼンテーションまでの進行、及び、まちのコンセプトづくりのためにグループで話し合う内容、グループ発表の要素としてキャッチコピーとまちの設計図を作成することの説明を行った。

## (4) ワークショップ (WS)

赤、青、緑、黄の4グループに分かれ、各グループにファシリテーター、市職員が入り、タイムテーブルに従ってグループワークを行った。

### <ワークショップの手順>

#### ① ディスカッション

グループごとにファシリテーターが模型、地図、レクチャーで示した事例等を示しながら、参加者に誰のためにどんなまちをつくりたいかを考えてもらい、発言を求め、議論を行った。

会津若松駅前の理想のまちづくりのためのコンセプトづくりと、街を構成する要素と配置についてのイメージを「まちの設計図」に落とし込んでいく作業を行い、グループの提案としてまとめていった。



◆地図を広げて駅の位置を確認



◆会津若松のいいところを考えてみる



◆現況模型を前に作戦会議



◆事例も参考にまちづくりのネタを探す



◆模型を置いてイメージを積み上げる



◆駅前まちづくりのコンセプトを練る



◆コンセプトからキャッチコピーを作る



◆基盤模型にシートを重ねて設計する

出典：会津若松市HPより

### <ワークショップの手順>

#### ②模型製作

ディスカッションで作成した「まちの設計図」を基に、地盤模型の上に駅前広場や敷地。道路を区分けし、建物模型を配置し、グループで討議した駅周辺地区のイメージを形にする。地盤、建物はテクスチャーを貼り替えて、コンセプトに沿ったまちの雰囲気表現し、植栽、人、車を配してリアルな演出を施していく。



◆ 設計図の上に建物模型を並べてみる



◆ 模型材料の吟味



◆ スタイロフォームをカットして建物を作る



◆ ボリューム模型に建物ファサードを貼る



◆ 会津カラーの赤煉瓦色で街並みを統一



◆ 芝生広場の緑でまちの姿が見えてくる



◆ ディテールに気を配り総がかりの作業



◆ 出来栄えを左右する植栽

出典：会津若松市HPより

### <ワークショップの手順>

#### ③プレゼンテーション（グループの提案、成果発表）

プレゼンテーションでは、ディスカッションの内容とプロセスをプレゼン資料にまとめ、成果を発表した。グループのコンセプトをキャッチコピーで表現し、未来の駅前の姿を提案する「まちの設計図」を示し、CCDカメラで街並み模型の細部まで映し出しながら、自分たちのこだわりを伝えた。



◆まちづくりの基本はマーケティング



◆挿絵も入れ聴衆のイメージを膨らませる



◆グループで考えたコンセプトの発表



◆駅前広場を中心に拡がるまち



◆街区ごとの機能分担を解説



◆図解でまちの立体構造を解く



◆模型映像でディテールを説明



◆押し出しのよい迫力のプレゼン

出典：会津若松市HPより

## (5) 講評

まちづくりは自分たちでやらなければいけない。今日は模型だったが、将来大人になった時、実施にまちづくりをしていくことになる。

一昨年くらいから日本の人口が減少しはじめたが、会津では10年位前から減っている。会津でまちづくりを考える時、住みたい人が減っているのではないかと、という危機感が大事。その解決は簡単なことではないが、高校生が自分たちで住みよいまちづくりを考え、自分たちのまちを好きになれば、その気持ちは周りに伝わっていく。

それを邪魔しているのは大人たちで、高校生がこういうまちに住みたい、地域のためになりたいと言う横で、自分たちのところには何もないと言っていたりする。地域の中でのコミュニケーションが取れていない。まちを何とかしたいという総論と、個別に解決したいことの各論が重なるとまちづくりはうまくいくと思う。

会津若松の駅前も、今は何もないかもしれないが、自分たちはこんな夢やアイデアを持っていると、自信を持って言って欲しいし、今日の発表を見て大丈夫ではないかと思った。



#### 4. プレゼン資料

##### 赤グループ (チーム名: スタバ系女子)

会津若松駅前には  
会津の魅力を一望できる  
70歳でもオシャレに歩ける  
小さな町(ペーパ)。

チーム名 **スタバ系女子**

**Design Game**

自己紹介

- ・どこから来たか (住んでますか)
- ・25年後はどこに住んでほしいか  

市外	会津
----	----
- ・50年後はどこに住んでほしいか  

市外	会津
----	----
- ・印象的なお話、レクチャーシート

私たちの未来、というだろう。

まちのコンセプト

- ・人が歩いて生活できる町。
- ・若者と老人が共生する町。
- ・「オシャレ」な町。
- ・車をとって便利でいい町。
- ・昼と夜、活発的な町。
- ・多種多様な施設が整備されている町。

→ 設定 →  
 最速は50年後、  
 会津に住んでほしい町。  
 若者は3人くらいほしい

まちの設計図 (山ものがやかとつまた小川は町)

駅  
 住宅地・介護施設 役所  
 カフェ  
 ショップ

駅から会津の名所が一望できる

50年後の私達も50年後の街はも欲しい施設がいっぱい

50年後の私達	50年後の街
・一人で歩ける町	・歩い上: 50代 60代 70代 80代 90代
・20代 30代 40代 50代 60代 70代 80代 90代	・気軽に友達と遊びたい
・生活が楽な町	・生活が楽な町
・20代 30代 40代 50代 60代 70代 80代 90代	・生活が楽な町
・歩ける町	・歩ける町
・歩ける町	・歩ける町

50年後のまち(ペーパ)!

- ★ 駅の近くに住宅地
- ★ 住宅地には役所や介護施設
- ★ 病院の隣にはヘリポート
- ★ いってまえる屋根つきゲートボール場
- ★ 住宅地から駅への移動は車を侵入禁止にするので歩いて行ける

50年後の高校生

**スタバ** | **Live会場**

スタバはJKにとって大事な場所。会津JK 決意!! スタバで電車9時5分間に勉強して、飲み物を飲んで休むのがこの代わり。

JKと云えば Live!! 高校生が主として イベント (ダンス) など 新場所にして 盛り上げよう!!

出典: 会津若松市HPより

黄グループ (チーム名: チキン=地どり)



Step 2

① 資料の読み  
駅周辺のよ・臭、匂いについて考える

② 次に  
利用者ごとにどうあるかの考え、コンセプト

③ ユーザーと  
設計をします

駅について思うこと

・外見から見たときの駅舎  
・エレベーターがあること  
・ホームがきれい  
・ホームが階段を使わなくてもいける(1,2,3番線)

駅  
・駅舎のデザイン  
・駅舎の大きさ  
・駅舎のデザイン  
・駅舎の大きさ  
・駅舎のデザイン

・駅舎のデザイン  
・駅舎の大きさ  
・駅舎のデザイン

駅周辺がこうあってほしい～高校生～

・新しいもの  
・駅舎のデザイン、デザイン  
・新しいもの  
・駅舎のデザイン、デザイン

・その他  
・駅舎のデザイン、デザイン

駅周辺がこうあってほしい～観光客～

・電車の駅舎  
・駅舎のデザイン  
・駅舎のデザイン  
・駅舎のデザイン

↓

会津若松駅に観光客が来る駅  
駅舎のデザイン、デザイン

駅周辺がこうあってほしい

・高齢者  
・高齢者  
・高齢者  
・高齢者

・高齢者  
・高齢者  
・高齢者  
・高齢者

まちのコンセプト

**CATCH**

まちのコンセプト

Culture 文化の街  
Art 芸術の街  
Time 時間の街  
Community 地域の街  
History 歴史の街



出典: 会津若松市HPより

緑グループ (チーム名：四神と2人のモブ)



### まちのコンセプト

わかりやすい → 表示、サイン計画 → 色分け (赤-龍(南), 黒-玄武(北), 青-朱雀(東), 白-白虎(西))  
 会津らしく → 武道場, 相倉館 → 黒エリア  
 みんなが集まれる → 自習室  
 → 赤エリア-交通  
 黒エリア-両国人が集まる場所  
 青エリア-地域の人々の町屋地区  
 白エリア-地域の高層ビルエリア

### まちの設計図

### 赤のエリア (朱雀エリア)

赤のエリアは今の会津若松駅のロータリーの外側に広くを画して、利用しやすくしました。このバスエタワウンには、電車から降りた人用の物で駅が一番近くに作りました。  
 駅から南側へいた自転車の駐輪場も、このエリアにまとめて持てました。

### 黒のエリア (玄武エリア)

観光客と地域の人、両方が使えるエリア  
 特産物と扱うお店が多数並ぶ  
 弓道等の武道を行える武道場 (観光客は体験できる)  
 駅の3階には高校生などが使える学習スペース  
 芝生が広がっていて、建物の色は黒で統一  
 駅の西側をつなぐ歩道橋を設置

### 青のエリア (青龍のエリア)

青のエリアは、地域の人々が使うエリアです。  
 他国へ行く時の高速バスのターミナルも利用することが出来ます。赤、中庭のあるショッピングセンターは、地域の人々が利用したいと思える魅力的な場所です。  
 バスや自転車の時間も利用出来ます。

### 白のエリア (白虎エリア)

白のエリアは駅から出てすぐにある、アーケードに始まり、白虎通りに面した住宅地と駐車場です。  
 アーケード…西側の赤のエリアと黒のエリアが一目で解り、目の前の青のエリアのバスターミナルは1直線で行くことができます。  
 住宅地…駅から近く交通の便が良いので、通勤の為に優しい住宅になっています。  
 駐車場…駅前の広域をつくるために、駐車場も増設されました。

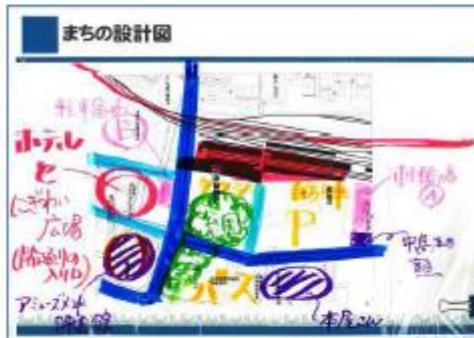
出典：会津若松市HPより

青グループ（チーム名：ソースカツ食べ隊）



**まちのコンセプト**

唯一の城の赤瓦、会津塗りの赤、ソースカツ丼の桜肉の色である赤色と、天守閣の白壁、白虎隊、雪の白色と街並みを統一、会津の特色であるコンテナや旧貨物線路を移動して有交利用。



**まちの設計図**

道路は渋滞が起これるのを防ぐ為に  
道交点的に西に置き、線路をまたいで市の東と西をスムーズに行き来できるように考えた。  
また、道路を直線にすることで駅から鶴山までを見通せるようにした。

バス、停留所の位置を考えた。  
待合時間と暇に利用する客店を考えた。  
雨の降ったとき大きな屋根を設置。  
桜と桜をこけて景観に  
使ったコンテナを利用した商業施設を考えた。

会津について分かりやすく観光客向けのPRを看板に作り出した。(赤い瓦、白壁、鶴の塔、赤い瓦、雪)

道路と横断する公園をつくり出した。  
道路を渡る時は車道と交差せず、ロープウェイで渡ることが出来ます。  
公園は広いため、噴水があったりライブを行うことが出来ます。

大通りに沿って歩行者に車を進入禁止にした。  
ホテルに泊る宿泊客や観光客向けの滞在型通りを作った。  
地元の人に向けては、大通り沿いに映画館、アミューズメント施設、会津塗器を使用したカフェ、飲食店を作り、人が集まりやすくした。

駐輪場が駅が遠く、路上駐輪を多かつたため、西から来る人は駅に向かふ左の駐輪場に東から来る人は駅に向かふ右の駐輪場に自転車を停めさせた。  
また、乗用車とタクシーの入口が同じで、その入口を別々に作り、乗用車は駐輪場に、タクシーはタクシー乗場にスムーズに行けようにした。

出典：会津若松市HPより